

ソフトフォンに対する認定について

2012年4月16日
株式会社ソフトフロント

ソフトフロント 主なソフトフォン

弊社ソフトフロントでは、パソコン向けソフトフォンおよびそのツールキット(SDK)を開発し販売しております。
また、スマートフォン(タブレット)向けのソフトフォンの販売を検討しております。

No	製品名	概要	最大同時通話数	メディア			対応OS	利用電話番号	備考		
				音声	ビデオ	データ					
1	SUPREE Vision Premier	ソフトフォン・ツールキット	1	G.711 G.711.1	MPEG4	—	WinXP WinVista Win7	0AB~J	基本コンポーネントは同一		
2	SUPREE Vision Premier Pro	通話録音機能対応ツールキット	1			—					
3	SUPREE Vision Premier Pro app-data edition	データコネクト対応ツールキット	1			TCP					
4	SUPREE Vision Premier 2	複数拠点会議対応ツールキット	8		H.264	—			WinXP WinVista Win7	0AB~J	
5	SUPREE Vision Premier 2 HD	HD対応ツールキット	1								
6	HelloMeeting	1対1テレビ電話アプリ	1								
7	HelloMeeting Pro	4地点テレビ会議アプリ	4		G.711 G.711.1 (予定)	MPEG4 (予定)			— (予定)	iOS4以降 Android 2.3以降	販売時期未定 販売時期未定
8	iPhone/iPad向け テレビ電話アプリ	スマートフォン向け音声/ビデオフォン	1								
9	Android向け テレビ電話アプリ	スマートフォン向け音声/ビデオフォン	1								

ソフトフォンの種類

①インストール型

パソコン等の汎用端末へ、ソフトフォンを「インストール」することで、既存の汎用端末へ電話機能を追加できる。
ユーザーは電話機能を利用する際に、あらかじめインストールしたソフトフォンを起動・実行する。



③SDK型

パソコン等の汎用端末へ、一つのソフトフォンSDK(ツールキット)と、そのSDKを利用するソフトフォンUIをインストールすることで、既存の汎用端末へ電話機能を追加できる。
ユーザーはサービス毎に異なる複数のソフトフォンUIを選択して操作することで、ソフトフォンを起動・実行する。



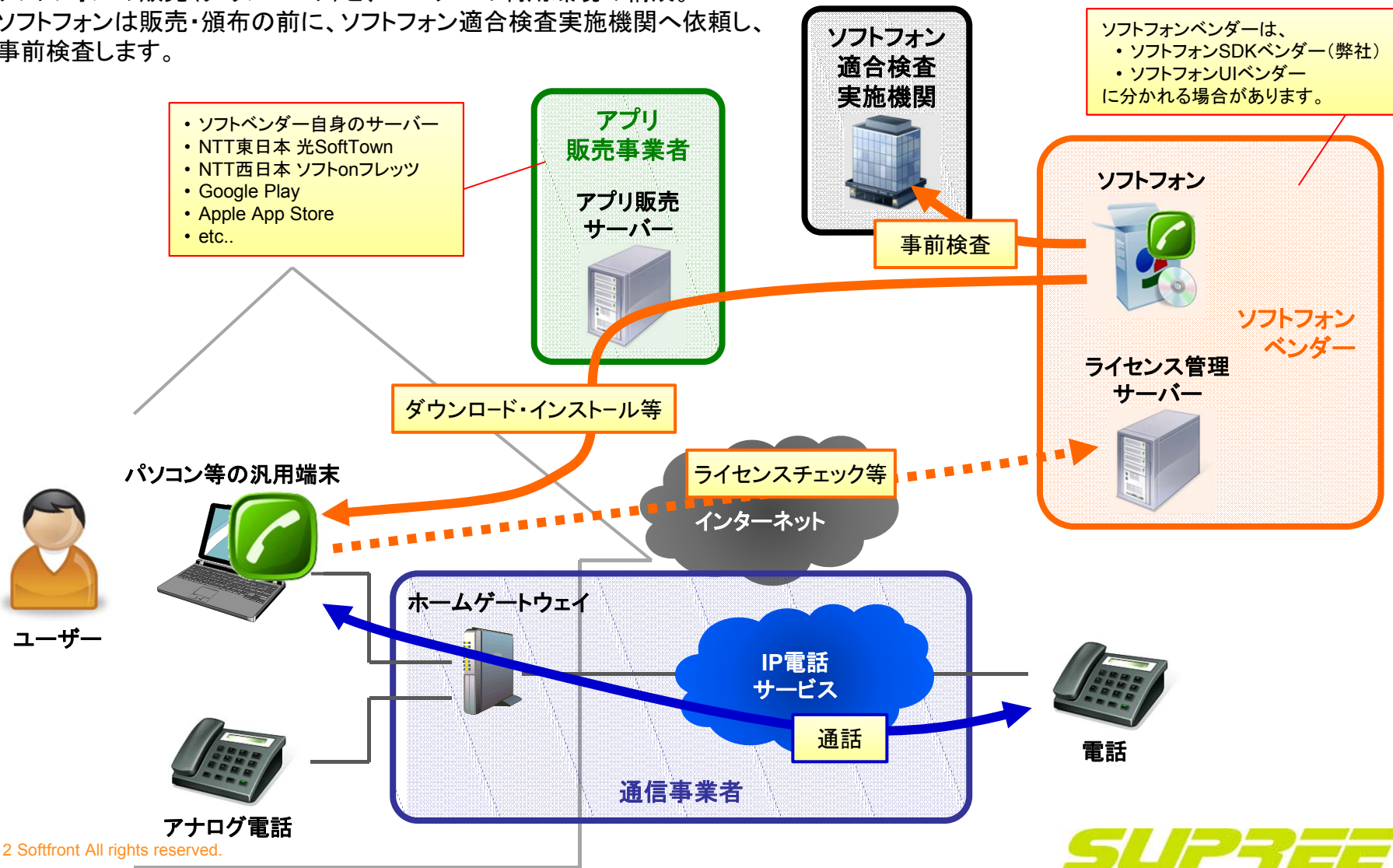
②クラウドサービス型

Webブラウザ等へ、ソフトフォン機能を有するソフトウェアを「ダウンロード」することで、既存の汎用端末へ電話機能を動的に追加できる。
ユーザーは電話機能を利用する際に、Webブラウザ等を起動して、特定のサーバー等へアクセスすることで、ソフトフォンを起動・実行する。

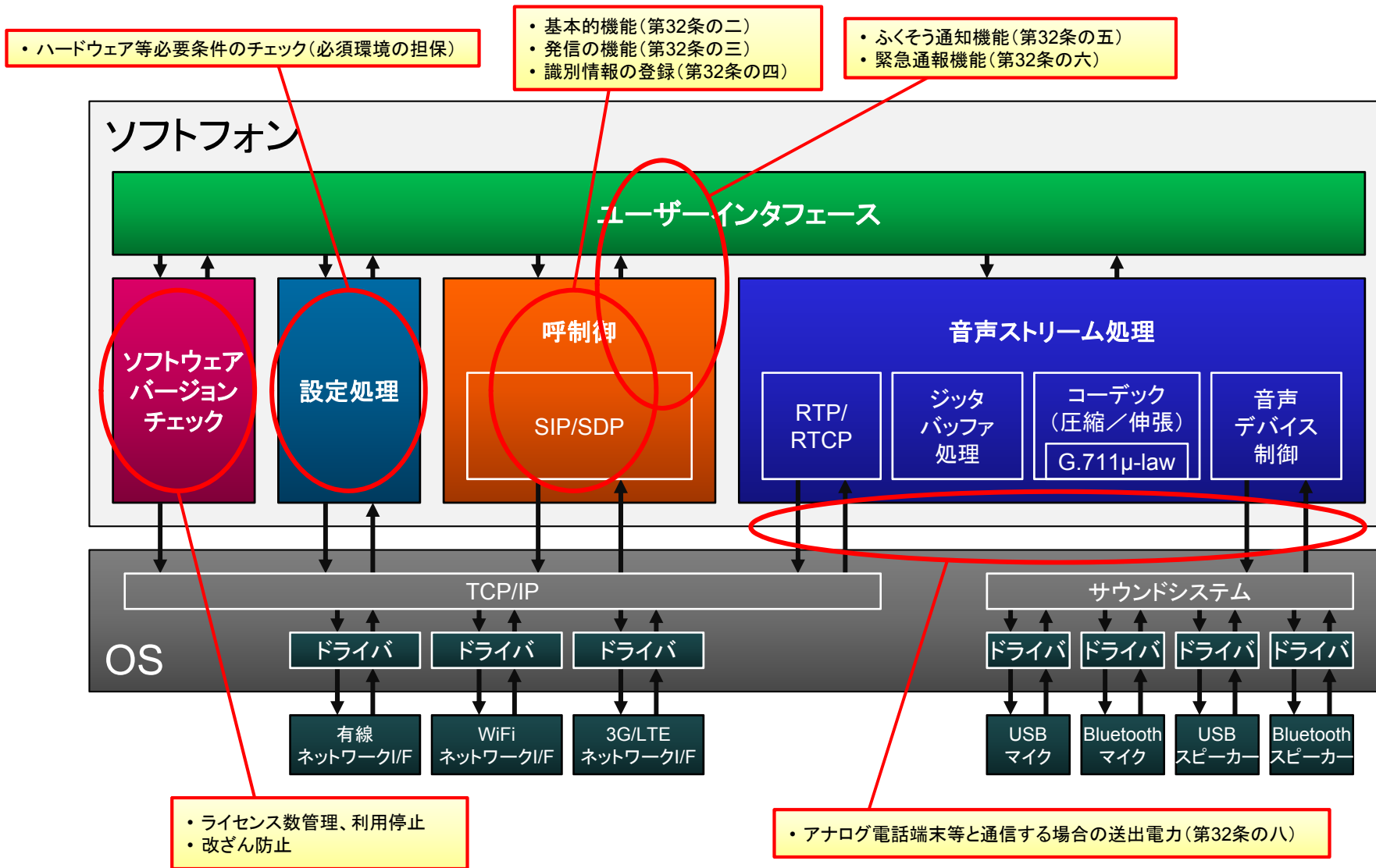


ソフトフォンの配布・利用の構成

0AB~J番号を使用する弊社ソフトフォン（およびソフトフォンSDK）の場合における、ソフトフォンの販売（ダウンロード）と、ユーザーの利用環境の構成。ソフトフォンは販売・頒布の前に、ソフトフォン適合検査実施機関へ依頼し、事前検査します。



ソフトフォンの実装モデルとソフトフォンに関する認定の技術的対応



スマートフォンの認定に関する課題

スマートフォン／タブレット端末が汎用端末として利用拡大される中、スマートフォンの実行環境は、パソコンからスマートフォン／タブレット端末へ拡大・移行していくものと思われます。

パソコンにおけるスマートフォン認定への対応の他、スマートフォン／タブレット端末を対象とした場合には、下記項目が大きな課題になると考えております。

1. OSのバージョンアップへの対応

スマートフォン／タブレット端末のOSバージョンは、高い頻度で改版されています。

これら端末で動作するスマートフォンに対して、各OSごとに「事前検査」を実施する場合、OSバージョンアップごとに行う検査コストが増大し、スマートフォンベンダーとして著しい負担になることが想定されています。

OS	バージョンアップの経歴
iOS	3.0 → 3.1 → 3.2 → 4.0 → 4.1 → 4.2 → 4.3 → 5.0 → 5.1 2009年6月 → 2009年9月 → 2010年4月 → 2010年6月 → 2010年9月 → 2010年11月 → 2011年3月 → 2011年10月 → 2012年3月 2009年以降で 9回 の 0.x レベルのバージョンアップ (9回/36ヶ月=4ヶ月に1回)
Android	1.5 → 1.6 → 2.0 → 2.1 → 2.2 → 2.3 → 3.0 → 3.1 → 3.2 → 4.0 2009年4月 → 2009年9月 → 2009年10月 → 2010年1月 → 2010年5月 → 2010年12月 → 2011年2月 → 2011年5月 → 2011年7月 → 2011年10月 2009年以降で 10回 の 0.x レベルのバージョンアップ (10回/36ヶ月=3.6ヶ月に1回)

2. 端末機種への対応

スマートフォン／タブレット端末は多くの機種が販売されていますが、「動的検査」(必須環境のチェック等)を実施する場合には、実行時に必須要件を技術項目毎にチェックすることは非常に困難であるため、実行環境の「機種」を判別してチェックせざるを得ないと考えております。

しかしながら、機種数は高い頻度で増大しているため、その度ごとに「機種判定処理」を更新するなど、スマートフォンベンダーとして著しい負担になることが想定されています。

	NTTドコモ	KDDI	ソフトバンク
スマートフォン機種数	35	26	24
タブレット機種数	5	2	2